

2025年度 事業報告

一般社団法人 福山市医師会

I 公益目的実施事業

- ・公益目的実施事業として地域医療推進事業及び看護師等養成事業をおおむね当初の公益目的支出計画通り実施した。また、看護師等養成事業において、准看護課程が閉科となったことから、公益目的実施事業の見直しを行い、変更申請を行った。

1 地域医療推進事業

- ・医学の振興並びに医師の生涯研修に関する事業として、学術講演会、日医生涯教育講座等を開催した。
実績：当会主催・共催・後援の研究会及び講演会 開催数 140 件（内、日医生涯教育講座 117 件）
- ・医師会速報を年 23 回、医師会広報を年 4 回発行した。
- ・市民の皆様への発信として運営している「いきいき健康メール」は 2,439 名の登録者数となった。
- ・医師会ホームページを通して、市民及び会員向けに医師会活動や医療情報並びに疾病の流行の情報を提供した。
- ・公式 LINE の登録者数は 117 名となった。
- ・子育て中の家族に向けた子育て支援情報を毎月発行した。
- ・福山東、福山北、福山西の 3 署と「高齢者を犯罪や交通事故から守るための協力に関する協定」を締結しており、引き続き情報共有・連携を図った。
- ・禁煙支援のための市民公開講座を実施した。
- ・会員の交流事業（夏・冬）を行った。

2 看護師等養成事業

- ・第一看護学科の定員を 60 名から 80 名に増員したことにより、2025 年度の入学者は 79 名となった。一方、第二看護学科（定員 40 名）は 36 名にとどまり、前々年度、前年度に続き 3 年連続で定員割れという厳しい状況となった。なお、第二看護学科は、再来年 3 月に閉科を予定している。
- ・高等学校 50 校への個別訪問に加え、7 月・8 月・3 月に計 8 回のオープンスクールを開催するなど、受験者拡大に向けた取組を進めた。また、リニューアルしたホームページへの誘導を図るとともに、福山駅前のデジタルサイネージ広告やポスター、カレンダー等を活用し、学校の認知度向上に向けた広報活動に取り組んだ。
- ・本校で学ぶ多様な人材を確保し、地域への定着を促進する観点から、第一看護学科の「社会人入試枠」による試験を継続実施し、社会人の受験を促すべく取組を進めた。
- ・看護師国家試験の合格率は、第一看護学科 92.7%、第二看護学科 80.0%で、2 学科平均は 88.8%となり、全国平均 94.1%を下回る結果となった。今後は、学修支援の充実や個別指導の強化など、国家試験合格率の向上に向けた取組を一層推進する。
- ・看護師の地元定着促進のため、市内医療機関の参加のもと、学生・生徒を対象とした医療機関説明会を開催した。年度末の時点で、市内への就職者の割合は、第一看護学科については 52.7%、第二看護学科については 68.0%という結果であった。
- ・学校評価の取組の中で、前年度浮き彫りとなった課題に取り組むとともに、学校経営のあり方を多面的に自己点検・自己評価するとともに、学校関係者（学識者、臨地実習施設の看護部長、卒業生）による評価を加えるなど、評価実施を通して本校の看護教育の充実・発展に繋げることを目的に、学校評価を実施した。

Ⅱ その他事業（部門別事業）

1 健康支援センター（健診）

- ・2024年度より協会けんぽの付加健診対象年齢の拡大があったことにより、2025年度も引き続き施設内受診者の増加および前年同程度に1人当たりの健診単価が増加した。反対に、巡回健診では付加健診の項目が出来ないこともあり、施設内への希望者が増えたため減少したが、施設内健診の増加により全体では、1.9%の売り上げ増となった。
- ・住民健診においては、北部健診センターの稼働により、前年対比96.8% 約497万円減となった。
- ・人間ドック秋・冬キャンペーンの実施、国道2号沿いデジタルサイネージ広告、道路看板設置、公式LINEアカウント開設、チラシ配布、ポスター配布、メモ帳配布、地域情報誌イベント掲載など、多くの新規取り組みを行い、受診者増の取り組みを行った。
- ・他施設が健診施設を新規開業したことにより受診者状況が厳しくなることを踏まえて顧客企業へ継続受診していただけるよう挨拶回りや営業活動を行った。
- ・現在使用している健診システムが2027年9月に保守が終了することから、新たなシステムとしてALTURA X社の「CHECKUP」を契約した。2027年4月稼働を目途に導入対応進めた。

2 健康支援センター（検査）

- ・福山臨床検査センターとのBCP連携の一環として、一部検査項目の外注化を継続している。
- ・検査消耗品や検査委託契約、集配コース等の見直しを行い、経費削減に努めた。
- ・新規開業医療機関の支援を行ったことにより、検査部門を利用している。
- ・すこやかネットを活用した検査連携を新たに4医療機関と実施した。
- ・感染性廃棄物処理業務の再案内を実施することにより、新たに3医療機関と契約を締結した。

3 健康支援センター（病理）

- ・病理検査システムの更新に向けて、関係部署や関係施設と情報交換を行い、検討を進めている。
- ・新規開業医療機関の支援を行ったことにより、病理部門を利用している。

4 健康支援センター（地域ケア）

- ・地域ケア3部門（居宅介護支援事業、訪問看護事業、包括支援事業）は、2024年度に開始した3か年計画に基づき、ICT活用や業務効率化を進めながら、安定的な事業運営と地域包括ケアシステムの推進に取り組んだ。
- ・「福山市医師会地域ケアセンターIROHA」では、福山市在宅医療・介護連携推進事業の委託を受け、多職種連携、ICTを活用した情報共有支援、研修会開催等を通じて、在宅医療・介護連携体制の充実に努めた。
- ・各事業を通じて、人材確保、人材育成、業務効率化を共通課題として取り組み、持続可能な地域ケア体制の維持・強化に努めた。

5 健康支援センター（夜間小児診療所）

- ・18名の出務医による当番制にて、準夜帯（19時から22時30分）の診療を年中無休で行っており、出務医一人当たり年間19回前後の出務をお願いしている。（2026年3月末現在）
- ・2025年度の年間受診者数は年間5,734人となり、前年から138人増加した。
受診者数はコロナ禍以前の6割程度となっており、受診者数の一日平均は15.8人であった。

6 収益事業

- ・立体駐車場を福山東警察署職員及び職員へ、東深津町の借地を看護学生へ月極駐車場として賃貸している。
- ・医療関係の各種講演会等の実施のため、医師会館を貸会場としている。実績は3件のみであった。
- ・福山市から在宅医療・介護連携推進事業の委託を受け、在宅医療・介護連携に関する相談に応じ、会員医療機関及び関係機関との円滑な連携へ貢献を図った。

Ⅲ 法人会計

1 法人会計

- ・福山市が設置し、4医師会で構成する夜間成人診療所共同事業体が指定管理者となっている夜間成人診療所の運営事務の一部を受託実施した。
- ・A会員の新規入会は6名であった。
- ・臨時総会を2025年10月27日、定時総会を2025年6月21日に開催した。
- ・理事会を2025年5月26日、9月8日、10月27日、11月25日、2026年1月13日、2月9日、3月9日、3月23日に開催した。

2 システム

- ・会員医療機関向けIT相談室の開設

2025年4月にIT相談室を開設し、会員医療機関からのITに関する相談や定期的なインフォメーションによる情報提供活動を行った。2025年度はWindows10サポート終了があったため、それに付随した問合せが最多となった。標準型電子カルテなど電子カルテ導入に関する相談や、サイバーセキュリティに関する相談もあり、ITフェアでの講演会へも内容を盛り込んだ。また、定期的な情報発信として「ITニュース」を5回発行した。

- ・福山市医師会ITフェア2025の開催

2026年2月19日（木）に単独では2年ぶりとなる「福山市医師会ITフェア2025」を開催した。本フェアは、医療DXの推進や日常診療におけるICT活用のヒントになるような情報の提供を目的として開催し、33社の出展企業ブースには医師をはじめ、医療従事者、事務担当など115名の参加があった。また、診療報酬改定のポイントや医療DX、セキュリティについての講演会も併せて開催した。

- ・Windows11とMicrosoft365の導入

Windows10とOFFICE2019のサポート終了に伴うセキュリティリスクに対応するため、医師会と看護学校にあるサポート終了対象の機器について更新を行った。パソコンは97台、OFFICE製品は看護学校の教育ライセンスと併せて230ライセンスを更新した。